

水道情報活用システム標準仕様研究会 と活動状況のご紹介

2021年12月

水道情報活用システム標準仕様研究会 事務局

1. 水道情報活用システムの概要
2. 水道情報活用システムの標準仕様とは
3. 水道情報活用システム標準仕様研究会とは
4. 研究会の各会議体の役割について
5. 研究会の今年度活動計画
6. 研究会活動のご紹介①～④
7. 会員募集について

- ## 水道情報活用システムの 利用イメージ



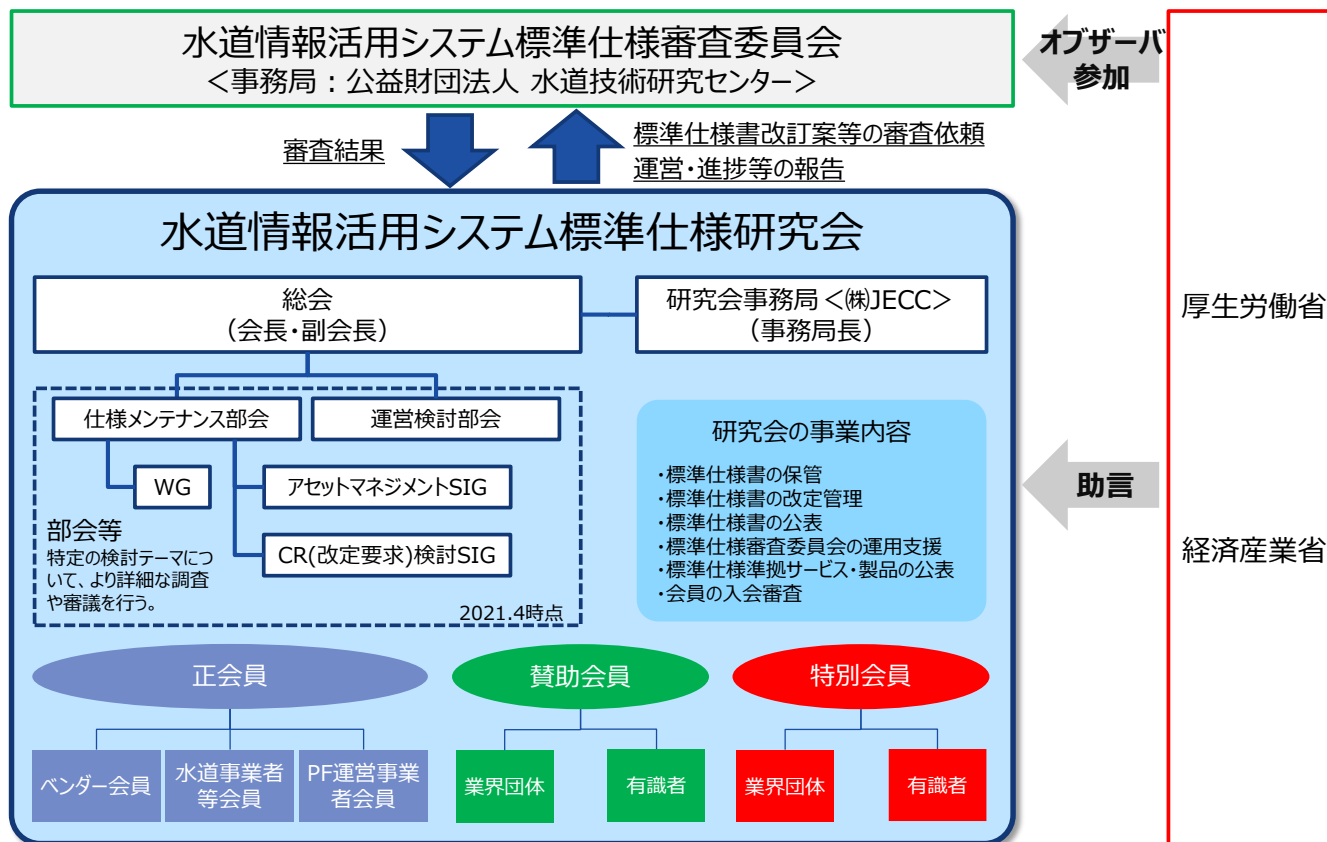
2. 水道情報活用システムの標準仕様とは

- ✓ 水道情報活用システムの標準仕様とは、これからの水道事業におけるデータ流通の共通ルール等を定めたもので、厚生労働省と経済産業省、NEDOの連携により2019年4月に作成されました。
- ✓ 標準仕様は、日々進化する技術や情報利活用の高度化にあわせて継続的に改定などを行う必要があり、これを担う組織として審査委員会と本研究会が設置されることとなりました。

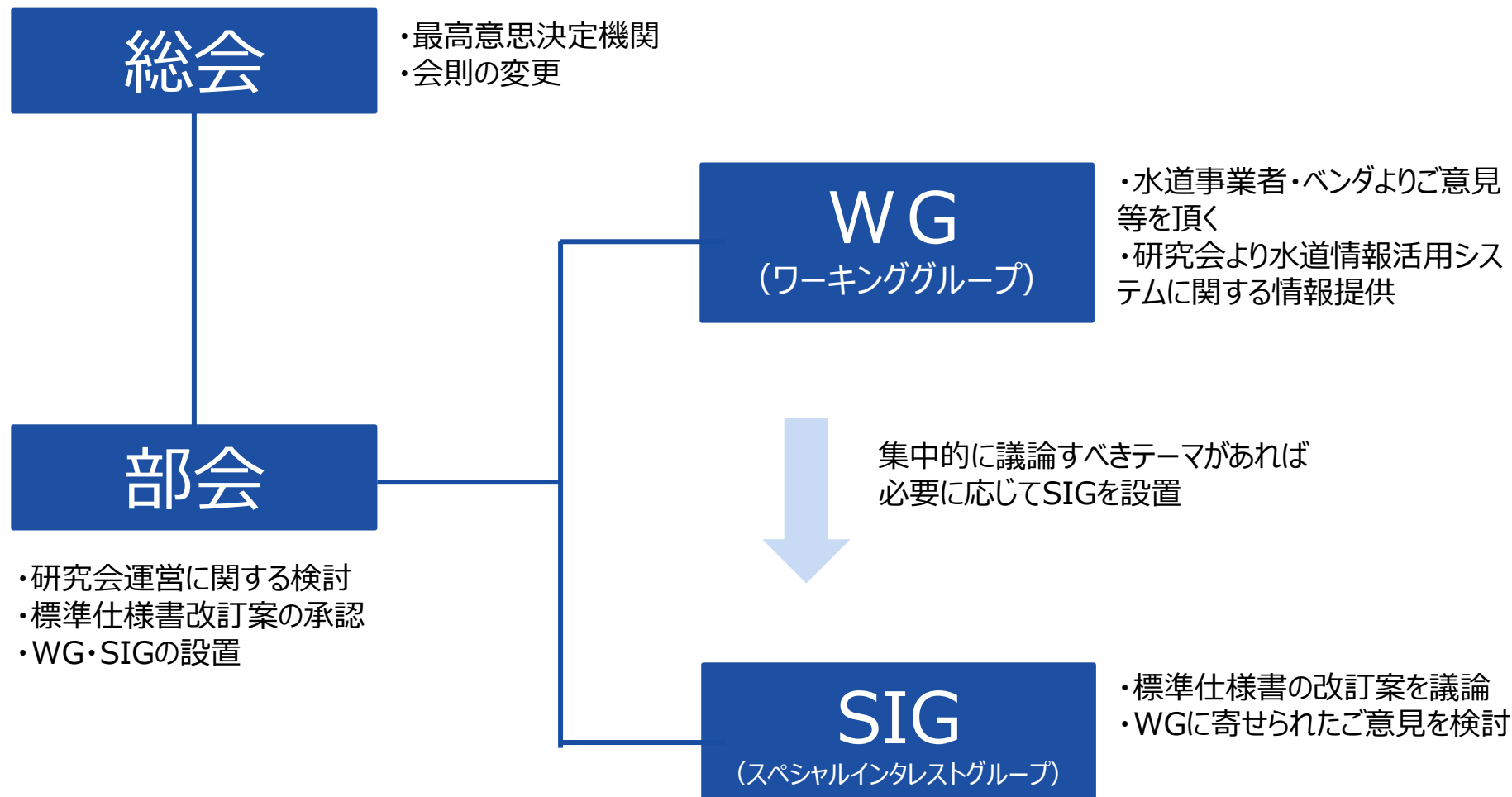


<https://www.j-wpf.jp/stdspec/>

- ✓ 水道事業の基盤強化を図ることを目的として、水道情報活用システムの利活用促進、並びに、その基盤となる水道情報活用システムの標準仕様の管理及び開発を行う場として設立されました。（2020年8月4日設立）
- ✓ （公財）水道技術研究センター様に設置された「水道情報活用システム標準仕様審査委員会」と連携し、標準仕様を管理してまいります。

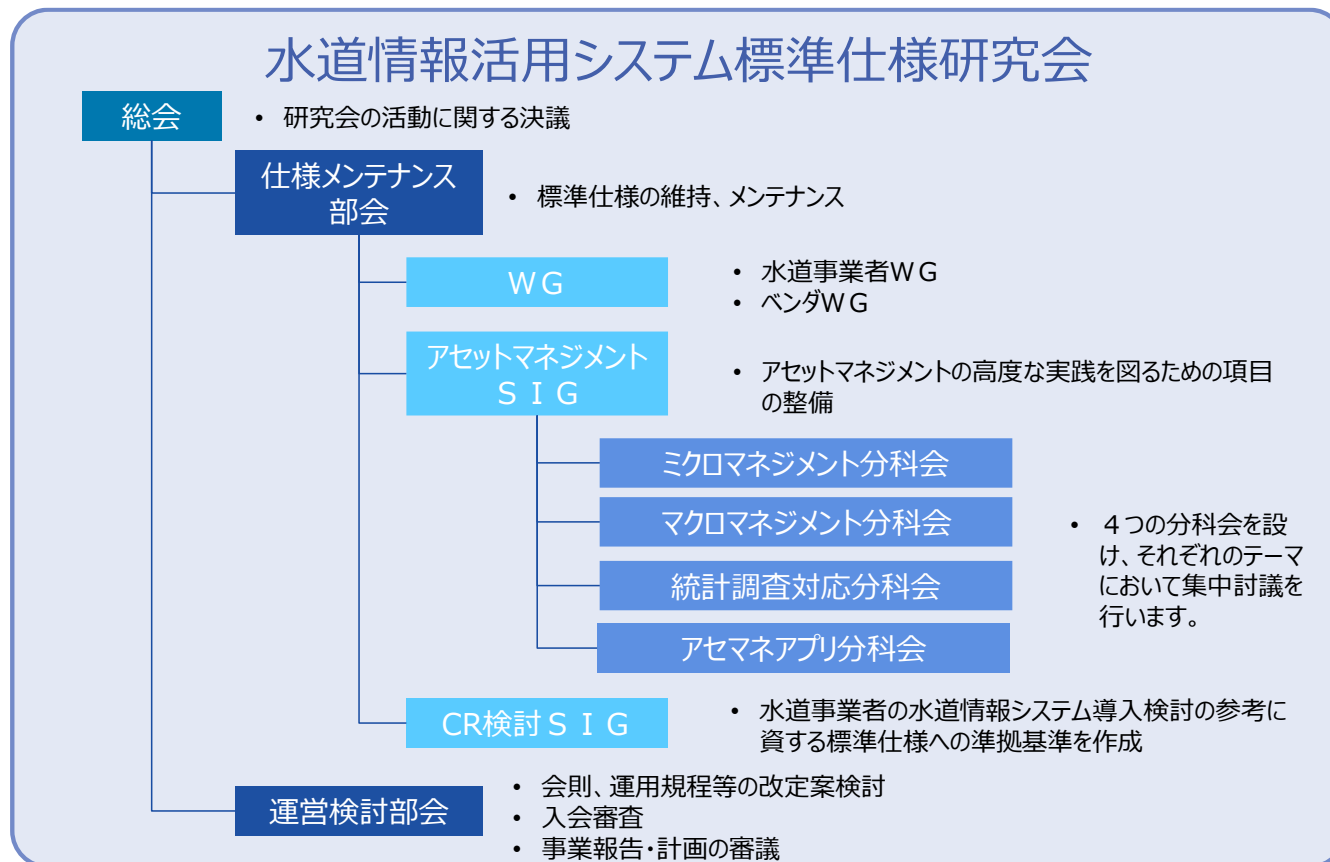


- ✓ 研究会に設置される各会議体と各会議体の主な役割は以下のとおりです。
- ✓ WGは年数回を開催予定、SIGは議論すべきテーマにより必要に応じて随時設置されます。水道事業者とベンダのニーズマッチングの場にも活用可能と考えます。



5. 研究会の今年度活動計画

- ✓ 2021年度は、検討テーマ毎に以下の会議体を設け、検討・審議を行ってまいります。
- ✓ 標準仕様の改定は、SIG等で作成される改訂案が、部会承認を経て、審査委員会に提出されることとなります。
- ✓ SIGは、下記以外でも研究会員からの意見等から、必要に応じて順次設置されます。



※SIGについては、提出された改定要求書（CR）により、必要に応じて設置されます。

- ✓ アセットマネジメントSIGの活動として、研究会会員の水道事業者様より、施設台帳情報をご提供頂き、重複などを整理し集約を行い、研究会HPへ公開しました。
- ✓ 水道事業者様からは各事業者が「項目の雛形」として利用することでデータの流通性(利活用)が担保されるとのご意見もあり、引き続き議論を重ねていく予定です。

水道情報活用システム標準仕様研究会
Water supply standard platform specification committee

ホーム トピックス 会員専用ページ 標準仕様書（最新版）の公表 入会のご案内 会員一覧 研究会について お問い合わせ

水道施設台帳の整備項目案を公開しました

水道情報活用システム標準仕様研究会（会長：新 誠一）、以下「研究会」といいます。）は、水道事業者様とベンダ様の知見を集約し、アセットマネジメントの高度な実践を図ることを目的にアセットマネジメントSIG※を開催しております。

この度、アセットマネジメントSIGでは、各水道事業者様から保有する台帳項目を提供いただき、ご協力いただいた水道事業者様が現在管理している項目ならびに水道情報活用システムの基礎データ項目を踏まえ、水道施設台帳のデータ項目案を整理いたしました。

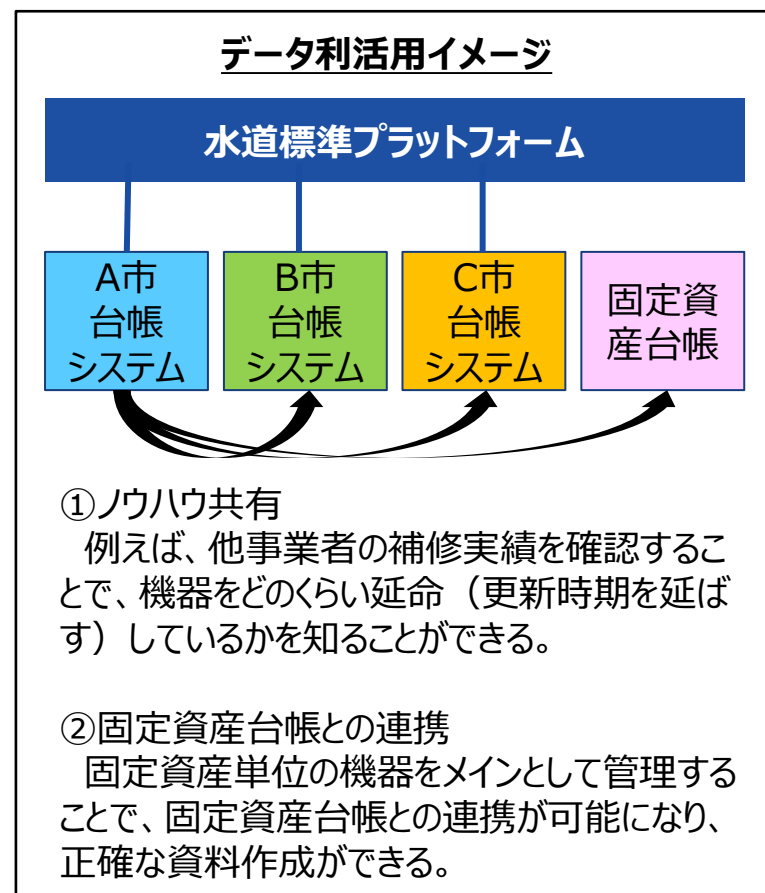
研究会会員以外の水道事業者様等からもご意見を広く募ることで、より良い内容へ改訂を希望しているとの協力水道事業者様からのご意向もあり、一般公開させていただく運びとなりました。

ご意見は事務局宛（wssp-sc@jecc.com）にご連絡をお願いいたします。
いただいたご意見は、研究会内で検討し、施設台帳項目案に反映いたします。

公開資料：資料①施設台帳整備項目案（Ed.1.1）（EXCEL：286KB）
資料②機器種別 法定耐用年数案（Ed.1.1）（EXCEL：51KB）
資料③給水人口別 属性項目テンプレート案（Ed.1.1）（EXCEL：239KB）
資料④階層・種別・属性（項目）整備案の概要説明（Ed.1.1）（PDF：728KB）

※アセットマネジメントSIGについて
給水人口の規模、経営視点、水道用視点など、水道事業者様の状況や担当者の立場によって求めているアセットマネジメントが多岐に渡ることが、水道事業者様へのヒアリングの結果確認されたことから、以下の4テーマの分科会を設定して議論を進めております。

1. ミクロマネジメント分科会
2. マクロマネジメント分科会
3. 統計分科会
4. アセットマネジメントアプリケーション分科会



掲載場所：https://www.j-wpf.jp/

- ✓ 監視制御システムにて利用される、標準汎用インターフェイスの対応プロトコルとして OPC UA に加え、Modbus/TCP追加が行われました。
- ✓ これにより、水道事業者様の導入時の計装コストの低減が期待されております。

令和2年度 水道情報活用システム標準仕様の改定

【現状・課題】

- ・ 既存設備が更新期を迎えるまでの暫定的な接続の運用として「標準汎用IF※」を定義し対応
- ・ 監視制御等における導入障壁を極力下げするための標準汎用IFに関する検討が必要

※インターフェースの略

対象プロトコルの拡張 (Modbus/TCPの追加※)

※セキュリティ確保の観点から
監視利用のみ可
(制御利用は不可)

【効果】

- ・ 既存設備での接続が可能となる通信プロトコルが拡張されることにより、システム導入時の計装コストの低減が期待される

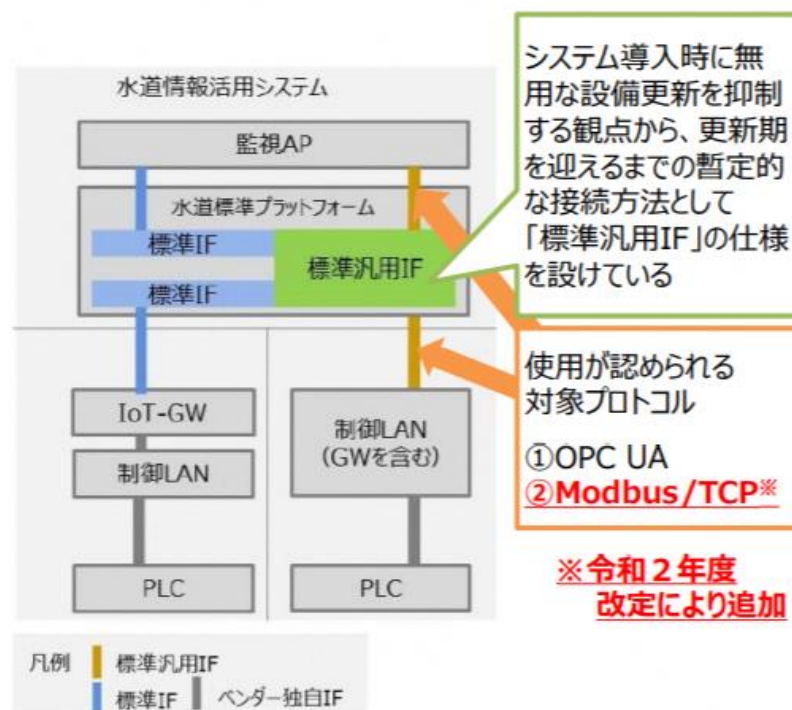


図 標準汎用IFのイメージとR2改定内容

出典) 令和2年度全国水道関係担当者会議 (厚生労働省)

- ✓ 研究会会員のベンダ様より、水道情報活用システムで利用できるサービス・製品の情報提供を頂き、一覧として取りまとめ、研究会HPへ公開しております。
- ✓ 公開している情報は**33ベンダ76サービス・製品**（2021年10月時点）となりますので、ご導入検討等の参考として頂けましたら幸いです。

水道情報活用システムで利用できるアプリケーションサービス・製品

水道情報活用システムでの利用できる会員企業のアプリケーションサービスおよび製品の一覧です。（2021年8月27日現在）

本情報は導入検討にあたっての参考情報であり、実際の利用にあたり、開発等、一定の調整期間を要する場合がありますので、詳細は各企業のお問い合わせ先にご相談ください。

1. アプリケーションサービス

※アプリケーション名の略称は以下のとおりです。

施設…施設台帳

マッピ…マッピングシステム

アセ…アセットマネジメント

水道…水道料金

財務…財務会計

需要…需要予測

管網…管網解析

運転…運転監視

水質…水質監視

企業名	商品名	施設	マッピ	アセ	水道	財務	需要	管網	運転	水質	その他	備考	お問い合わせ先
愛和時計電機株式会社	上下水道料金調定システム				●								公共SS営業推進部 TEL：052-661-0432 MAIL：kikaku@inet1.aichitokei.co.jp
	公営企業会計システム					●							
	上水道マッピングシステム		●					●					
	統合監視制御システム								●	●			
朝日航洋株式会社	水道台帳管理システム		●										東京空情支社 社会インフラ技術部 施設情報3グループ TEL：049-244-6059 MAIL：yoshiyasu-tokumaru@aeroasahi.co.jp

掲載場所：<https://www.j-wpf.jp/application/>

- ✓ 水道事業関係者を対象としたウェビナーを、日本水道新聞社と共催にて9月7日に開催致しました。
- ✓ ウェビナーには、約300団体（うち水道事業者 約150事業者）、約600名（うち水道事業者 約250名）の方々にご参加頂きました。



[HOME](#) > [お知らせ](#) > 第4回水道実務者が水道のこれからを考えるウェビナー参加登録(9月7日開催)

第4回水道実務者が水道のこれからを考えるウェビナー参加登録(9月7日開催)

2021年08月11日

[聴講登録ページ](#) (Googleフォームにリンク)

日本水道新聞社では昨年度から「水道実務者が水道のこれからを考えるウェビナー」を開催し、聴講者の方から好評をいただいております。

当社は、9月7日（火）に第4回のウェビナーを開催することと致しました。

今回は「水道情報活用システムの動向と活用法」をテーマに、他のインフラ分野に先駆けて昨年5月に本格運用を開始した「水道情報活用システム」の現状と導入メリット、実装状況を紹介します。

- ✓ ウェビナーでは、厚生労働省・経済産業省からの講演、先行導入事業者（金沢市・津幡町）からの事例紹介、先行導入事業者と有識者を交えたディスカッション等を行いました。

(2)

水道情報活用システムの 動向と活用法

ウェビナーの冒頭、水道研究活用システム標準化仕様研究会会長の新一電通通信大学名誉教授が「水とIT」をテーマに、水路・管路・システム、料金支払、水の質、事業全般をカバーするとともに、最新のイノベーションから旧来のレガシーまで扱える「水道標準プラットフォーム」における普及と活用の推進に期待を寄せた。

ウェビナーは急遽構成で実施。

第一部では、水道情報活用システム標準化委員会委員長と水道情報法

ウェブナーの概要

用システムを構築した研究
会、会費を募る石井博
東洋大学大学院経済学
研究科客員教授、東洋大
学名誉教授による基調
講演「水道に及ぼした
らす変化と水道管理に
システム」、厚生労働省
水道課の熊和哉課長に
よる講演「水道情報通
システムの現状と未
来」、産業政策の西川和
郎、分業政策の動向と水
道利用システム構築に
係る課題

市」の事例

金沢市の事例から

■金沢市の水道事業における情報システムの利用の現状と水道情報活用システム導入の背景

採用に当たり、短期間で解決しなければならぬ課題として、考案したという点については、老朽化したという点では、新たな必要性、ベンダーロックインによる監視制御システムと情報システムとの保守費更新費の高止まり、全世的に集中的に進める新常態・働き方改革への対応の3点。

水道情報活用システムを導入することで、ベン

浄水場と75配水施設を監視制御するシステムの甲新を行つた。また、工業用水道の監視制御装置を統合して更新を実施した。完成後にはタブレットや一般事務端末からの監視を可能とする予定となっている。浄水場の中の情報は浄水場の中で閉じながら、浄水場関連業務から、水道情報活用システムを

道情盤に、
と横断
考えて
■水
ム プラ
りは事
でも利
道情盤
用する
どまら
た応援

また、企業が「何を」している事業上は、横断的に情報システム、料金システム、公営事業システム、ムママーケティングシステムを利用してはいるが、施設監視制御は「誰が」と監視している。

視ていう。

で、効果を高めたいというにはクラウドの利用が有効と考へていた。その中で共通のデータベース、標準仕様が準備されている水道専用システムが開発されていることを知った。

データセンターの徹底な運用により効率的な経営がうねるようになった」と喜ぶ。

■現在の水道情報運用システムへの導入状況

令和2年8月から、広島県が「水質・水量・設備・施設・台帳」のデータ整備を推進し、導入している。

令和3年度までに、これらを一括で投入し、これにより、これまで追加工場を準備中、また、令和3年度にかけて浄水施設監視制御装置の更新事業を行な

用している方向と
 ている。
 今後は、料金システム
 (令和4・5年度)、公営
 企業システム④、マッ
 ピングシステム④、令
 4年度、施設台帳シス
 テム④、令和年度まで
 (令和4年度)について
 て水道情報活用システ
 ムを用いて構築する予定。
 料金システムは、公営
 企業システムの導入に
 ついて、パルスリッチ
 化、パルス利用に変
 えていく中で業務見直しを
 図るとともに、公営企業
 システムについては、パ

構築の可能
 また
 夕が紐
 が出来
 務の組
 きる上
 携の幅
 いる。
 9月
 ち上
 ムと会
 化、災
 盤、銃
 盤なレ
 プリ提
 るので



は高度なマネジメントは、組みの

マッティングシステム 企業に
ホスト終に伴うパーシ ャ支
ヨットアップを行う。施設 なつて
台帳システムについて てい
は「アセットマネジメント る水
の強化に向け、日平 土
定期点検・データ蓄積、 曜
簡易な最新計画の作成機 月
能、固定資産情報との連 金
携機能を持たせたいと考 通
えている状況 話

抱負関連データと業務 体にお
データを徹底的に活用し も必
て、データ駆動型経営を 義で
目指したいと考えていま マーの
りたい したい

データの少ない環境で 組みの

は高度なマネジメントは、組みの

いる 水産 企業に 支援す なるて ている
 ■水 ム 現状 純更新 ツトフ る状況 体にも も必要 ンダー マーの したい 組みの が、

- ✓ 本研究会では、会員を募集しております。本研究会の目的、事業にご賛同いただける水道事業者、企業等であればご入会頂けます。
- ✓ 会員となっていただくことで、WGやSIGなどの様々な活動にご参加頂けますので、是非ご入会をご検討ください。

水道情報活用システム標準仕様研究会 会員概要

会員の種類	(1) 正会員 …水道事業者等、水道事業等に関連するベンダー企業、水道標準プラットフォームの運営事業者 (2) 賛助会員…研究会の趣旨に賛同し、これに協力する水道事業等に関係する団体、有識者 (3) 特別会員…本研究会の要請により入会した水道事業に関係する団体、有識者
会員の メリット	(1) 標準仕様書（最新版）の閲覧 (2) 標準仕様書改定の次期改定案および検討経緯の閲覧 (3) 標準仕様への改定要求 (4) 部会等への参加 (5) 標準仕様に準拠したサービス・製品の公表 ※非会員は、(1)のみ行えます ※会費は無料です。将来的には頂戴する予定ですが、総会にて会員様の合意のもと決定されます。
問い合わせ先	水道情報活用システム標準仕様研究会 <事務局連絡先> 〒100-8341 東京都千代田区丸の内3-4-1 株式会社JECC内 TEL : 03-3216-3605 FAX : 03-3216-3860 MAIL : wssp-sc@jecc.com HP : http://www.j-wpf.jp/
会員数	69名（2021年11月時点）

< 水道事業者等 >	
愛知県 企業庁	綾部市 上下水道部
茨城県 企業局	岩手中部水道企業団
大阪市 水道局	大津市 企業局
岡崎市 上下水道局	岡山県広域水道企業団
鹿児島市 水道局	金沢市 企業局
京都市 上下水道局	神戸市 水道局
佐賀東部水道企業団	宝塚市 上下水道局
津軽広域水道企業団	東海市 水道部水道課
長浜水道企業団	長野県 企業局
奈良市 企業局	八戸圏域水道企業団
浜松市 上下水道部	山形市 上下水道部
< 関連団体 >	
公益財団法人水道技術研究センター (JWRC)	
公益社団法人日本水道協会 (JWWA)	
全国簡易水道協議会	
< 有識者 > (敬称略)	
新 誠一 (電気通信大学 名誉教授)	
石井 晴夫 (東洋大学大学院 経営学研究科 客員教授、東洋大学 名誉教授)	
菊池 明敏 (岩手中部水道企業団 参与)	
菅又 久直 (一般社団法人サプライチェーン情報基盤研究会 業務執行理事)	

< ベンダ >	
愛知時計電機株式会社	朝日航洋株式会社
アジア航測株式会社	アズビル株式会社
株式会社石川コンピュータ・センター	株式会社ウォーターリンクス
株式会社 N J S	株式会社オーシーシー
大崎データテック株式会社	オルガノプラントサービス株式会社
株式会社管総研	株式会社ぎょうせい
株式会社 K I S	国際航業株式会社
神鋼環境メンテナンス株式会社	シンク・エンジニアリング株式会社
株式会社正興電機製作所	第一環境株式会社
株式会社たけびし	株式会社中央設計技術研究所
東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社	東芝インフラシステムズ株式会社
株式会社日水コン	日本電気株式会社
日本無線株式会社	株式会社パスコ
株式会社 B S N アイネット	株式会社日立製作所
フジ地中情報株式会社	富士通 J a p a n 株式会社
株式会社フューチャーイン	株式会社マイシステム
三菱電機株式会社	株式会社南大阪電子計算センター
株式会社明電舎	メタウォーター株式会社
株式会社安川電機	横河ソリューションサービス株式会社
株式会社両毛システムズ	
< PF運営事業者 >	
株式会社JECC	

ご清聴、ありがとうございました。

ご質問等は、事務局までご連絡ください。

メールアドレス：wssp-sc@jecc.com